

光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2022年12月号>

186号 2022.12.01 配信

11月は本学の秋桜祭が開催されました。学校行事ばかりでなく、各地の文化的行事なども新しい方法を取り入れながら実施されるようになり、困難に屈しないで進もうとする強さを感じます。

また、本学に来年度から開設される専門職大学院は、各分野の専門職リーダーを養成するための高度な知識を学ぶ研究の場となっています。学校の教師も「生徒主体」の深い学びのための授業に日々取り組み、授業研究や勉強会も各地で行われています。

学校を卒業しても学びは続きます。知る喜び、新しい発見。いつも未知の出会いを求めて前進していくこうとする私たち。たくましいなと思います。（中学校・高等学校教職員ネットワーク委員）

■同窓会だより

◇第30回 秋桜祭に参加しました テーマ「colorful」（11月12日・13日）

①学内展示 「同窓会の活動とあゆみ」「支部提供の観光パンフレット」

②YouTube 動画投稿

「会長による同窓生ゆかりの学内紹介」「ワーキングネットワーク活動」



秋桜祭歴史ストーリー、プロジェクションマッピングの映像より、右が同窓会提供の写真



◇光葉同窓会生涯学習 クリスマスリース手作り教室を開催

11月29日(火)、三宅知子さん(1972年初等教育科・ハンドメイドサロン「ハーモニー」主宰)の指導で15名がアーティフィシャルフラワーでおしゃれなリースを手作りしました。参加者からは、「良い気分転換になった」「素敵な講座で楽しかった」「また参加したい」などの感想がありました。



※光葉同窓会年末年始休業期間 2022年12月23日(金)～2023年1月9日(月・祝)

※1月号(187号)は、2023年1月11日(水)に配信します。

「加藤澄江先生を偲ぶ会」

11月9日(水)、昭和女子大学と共催で執り行われ、同窓生と退職を含む教職員が100名以上出席しました。理事長・総長、同窓会会長の挨拶に続き、安西美津子さん、天野寛子さんが追悼の言葉を述べました。会場には在りし日の写真や著書などが並べられ、先生の思い出を語り合いました。



◇東明学林 光葉同窓会みかん狩りのご案内

日 時：12月16日（金）雨天決行 神奈川県足柄上郡大井町山田字道津 1868

集 合：昭和女子大学東明学林 10:45分集合／解散 13:30 持ち物：お弁当、飲み物

参加費：500円（保険代を含む）（持ち帰り用みかん代は別料金）

☆申込方法 12月2日（金）12:00よりメール受付にて先着20名

氏名（ふりがな）、卒年、学科、年齢、当日の連絡先を記載して下記にお申し込みください。

☆申 込 先 E-mail: dousoukai@swu.ac.jp 光葉同窓会事務局

■広げよう光の葉

大久保 綾子さん

1991年生活文化学科卒業 2022年大学院生活機構研究科福祉社会研究専攻修了

『学び』は希望

元号が昭和から平成に変わった年に短期大学部生活文化学科に入学しました。教員免許状（家庭科）取得を目指し、卒業単位と教職課程単位取得のために大学受験より勉強したと記憶しています。2年間はあっという間に過ぎましたが、生涯を通じての友人もでき非常に充実した学生生活でした。

卒業後は私立大学の事務職員として31年勤務しています。その間、結婚、3人の子育て、両親の看取り、家族の闘病、自身の大怪我と、仕事を続けながら様々な出来事を経験してきました。

仕事は総合職で、法人、教学の異動のたびに様々な業務を経験しました。その中で身障者雇用の現場担当をしたこと、様々な困難を抱えた学生との出会いがあり、福祉の分野に関心を持ちました。しかし、自分に専門性が無いことで現状を改善することができない非力さを感じていました。

情報化が進み、あらゆる物事が目まぐるしく変化する現代で、漠然とした不安があった時、海外の大学院について知る機会があり「大学卒業後直ぐに大学院へ進学するより、一度社会へ出てから再度専門性を深めるために大学院へ進学する」という記事を見て、「自分も学ぶことが必要でないか」と考えたことが、進学を目指したきっかけでした。仕事柄、受験や履修の手続きは理解していたものの、自分に合った進学先を大学も視野に入れて3年ほど、書籍や資料請求、オンラインで情報を集めました。そして、2021年4月に昭和女子大学大学院に社会人コースが開設されることを知り、「福祉社会共創」という専門分野に「これだ！」と感じ、受験への一步を踏み出しました。冬は仕事が繁忙期なので、修士論文の執筆時期を考え半年ずらし10月入学で事前相談をさせて頂き、短期大学卒のため資格審査を経て出願・受験し、入学を許可されました。約30年振りの学生生活は、毎日夜間の専門性の高い授業と週末の学習、多岐に渡る職業の方々との出会いは素晴らしい体験となりました。そしてなんとといっても修士論文の執筆には、寝食を忘れて没頭しました。今年勤続30年のリフレッシュ休暇を頂いたのですが、6月の猛暑日に8号館の院生室に籠って論文のラストスパートに消えました（笑）。

佐伯胖著『学ぶ』ということの意味（岩波書店）の一節に、「学ぶということは希望の次元に生きること」とあります。先生方のご指導とゼミの先輩の助けもあり9月末に無事大学院は修了しましたが、後期も科目等履修生とし自分の修論に関連する授業を受講しています。リカレント教育が必要とされる今、私の場合は大学院進学でしたが、他にも様々な形で学ぶ機会があります。私の経験を通し、「学び」という希望を持つことの楽しさを皆様にお伝えできれば幸いです。【End】

メールマガジンを読んでのご感想、ご意見をお寄せください